

次号予告

特集 データ解析コンペティション：大規模アンケートデータの分析

記述式評価データを用いた推薦システムの試作

.....田中蘭・綿川日菜・中川智之・田畑耕治・松澤智史（東京理科大学），小林正弘（東海大学）
ランキング手法を用いたフィットネスクラブの分析

.....河上佳太・工藤晃太・川瀬元暉・最首大輝・山田直輝・
吉田晏大・岩永二郎・高野祐一（筑波大学）

多変量ロジットモデルを利用したデジタルコンテンツ配信サービスの市場構造分析

—電子コミックサービス市場への適用— 里村卓也（慶應義塾大学）

態度に着目した潜在学習による顧客満足度と他者推奨の関係解析

.....北島良三（東京工芸大学），谷口唯成・小泉真人（東海大学），
坂本真仁（金沢工業大学），酒井浩之（成蹊大学）

機関誌バックナンバーのWeb掲載について

機関誌のバックナンバーを学会ホームページに掲載していますのでご活用ください。 <https://orsj.org/corsj-backnumber>
会員限定ページの閲覧には、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。【ユーザー名】 【パスワード】

編集後記

●今月号は「生物とOR」というタイトルで、生物の行動や進化に関して最適性の観点から六つの記事をご紹介します。普段身近に見ている昆虫や植物などの行動がなんらかの最適性に従っており、それをモデル化して解析していくというプロセスはまさにORであり、OR学会の読者の方にも興味深く読んでいただけたかと思います。私自身、素数ゼミや業序の原稿を楽しく読ませていただき、これを子供にうまく説明できたら尊敬されそうだなと思いつつ、かみ砕いた説明を考えてしまいました。まだ2歳なので断念しましたが、もう少し大きくなったらぜひトライしてみます。この企画は第二弾が「行動とOR」というタイトルで4号に掲載されるということで、今から楽し

みにしています。

●10月以降、新型コロナウイルス感染者数は非常に低水準を推移しています。日本における感染者数の減少の要因に関しては決定的な説明ができていないようですが、今回の特集を読んで生物学の観点からウイルスの進化をモデル化することで、その要因を特定し、コロナ禍が収束する時期を判断する試みができないのかと思つてしまいました。もちろんこれから冬に向けて油断することはできませんが、来年度からはコロナ禍前の生活に戻り、大学も対面での教育・研究活動ができないかと期待してしまいます。

（山本 零）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 野々部 宏司（法政大学）

特集担当編集委員 朝日 弓未（東京理科大学）

委員 伊豆永 洋一（九州大学），井床 利生（IBM基礎研究所），井家 敦（神奈川工科大学），鶴飼 孝盛（防衛大学校），梅谷 俊治（大阪大学），大竹 恒平（東海大学），加藤 怜（公益財団法人鉄道総合技術研究所），小林 隆史（立正大学），佐久間 大（防衛大学校），笹谷 俊徳（東京ガス株式会社），猿渡 康文（筑波大学），高野 祐一（筑波大学），生田目 崇（中央大学），蓮池 隆（早稲田大学），原田 耕平（株式会社NTTデータ数理システム），山本 零（慶應義塾大学），吉田 琢史（株式会社東芝）

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

令和4年1月号 第67巻 第1号 通巻733号

代表者 田口 東

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<https://orsj.org>

編集人 野々部 宏司

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。

・本誌への広告のお申込みは、明報社（Tel 03-3546-1337）へ。